



ウズベキスタン・ブハラ地区のユダヤ人

人口:15,000 人

● 伝承によると、今から 2,700 年前、ウズベキスタンのユダヤ人の祖先がブハラという町に来たという。当時アッシリヤ人がイスラエルを征服し(Ⅱ列王 17:6)、多くの人が捕虜となった。同記述にある「ハラフ」とはブハラのことだとこの地域の人々は信じている。彼らの初期の歴史については信頼できる記録はないが、イスラエルからの捕虜がバビロン(イラク)とペルシャ(イラン)を経て、ブハラにたどり着いた可能性は十分にある。

● ブハラのユダヤ人は、その歴史の中でほとんど他のユダヤ人集団との接触がなかったため、他のユダヤ人と区別するように名乗る必要もなかった。彼らは自分のことを「イスラエル」、あるいは「ヤフディ」と呼んでいる。彼らの重要な都市の一つであるブハラにちなんで、ロシア人が「ブハラのユダヤ人」という名前を付けたのである。ブハラのユダヤ人は、ジンギスカンがサマルカンドを陥落させた時、自分の先祖の一部がそこに住んでいたと信じている。言い伝えによると、サマルカンドが再建された時、14 世紀から 19 世紀末ごろまでユダヤ人のほとんどが織り物の職人や染物師であったという。当時のユダヤ人は、藍染めなどの布に仕事で日常的に触っていたため、藍色に染められた手が特徴だったという(「紫布の商人」であるルデヤ【使徒の働き 16:14】を参照)。

● ブハラのユダヤ人は、長い間ペルシャのユダヤ人の伝統習慣に従っていたが、18 世紀の終わりごろからセファルディ系ユダヤ教を守るようになった。一部の人は世俗化しているが、多くの人は今でもブハラのユダヤ人同士でしか結婚せず、世界各地で信仰を守るユダヤ人と同様に、さまざまな行事を守っている。彼らはタジク語の方言を使っているが、より若い世代の人々はロシア語も話せる。

● ブハラのユダヤ人は、少数民族として何世紀にもわたって、彼らを軽べつしたり、抑圧するような法律に耐えてきた。しかし、こうした障害にもかかわらず、彼らの多くは専門職や実業家として成功しているのである。

● 彼らは、おもにウズベキスタンの主要都市で暮らしている。首都のタシケントは、約4千人のユダヤ人の居住地である。タシケントには、他に1万9千人のロシア系(アシュケナジ系)のユダヤ人がいるが、彼らは比較的最近到着したグループなので、異なる集団と見なされている。また、約7千人のブハラのユダヤ人がサマルカンドに住み、「ブハラのユダヤ人」という名前の由来でもあるブハラ市では、約4千人が暮らしている。これで、ウズベキスタンのブハラ地区にいるユダヤ人の総人口は1万5千人になる。

● ウズベキスタンが旧ソ連の一部であった時代、ロシア人はユダヤ人に宗教や文化を捨てるように圧力を掛けていた。現在では、これがウズベク人からの再燃した敵意と入れ代わった。ユダヤ人はこの地において長い歴史をもっているにもかかわらず、ウズベク人は彼らを外国人としてしか見ない。ロシア人とユダヤ人のような外国人は、仕事を失いつつある。ほかの国と同様、昨今の経済不況はユダヤ人のせいに行われているのである。中には、無実の罪で刑務所に入れられた人もいる。ユダヤ人のリーダーたちは、こうした風潮が続くと、ユダヤ人がもっと攻撃にさらされるのではないかと懸念している。

● 難しい環境にいる上、他国に行くという選択肢もあるので、多くのブハラのユダヤ人はイスラエル(6万2千人)、あるいはニューヨーク市(1万5千人)に移住していった。このような新しい共同体では、彼らの長年にわたる伝統文化が現地の文化に同化してしまい、忘れ去られてしまう危険性がある。特に若い世代は無防備だといえる。なぜかという、ウズベキスタンにいた時から、彼らはすでに、世俗的なロシア文

化を積極的に受け入れる傾向があったからである。


 祈りの課題

☆ブハラユダヤ人が、政府からの干渉や抑制なしに、他の国に移住することができるように。

☆主があわれんでくださり、ナショナリズムの台頭のゆえに起こった、迫害や反ユダヤ主義から彼らを守ってくださるように。

☆主が彼らの危険な状況を用い、逆に彼らをご自分の方に引き寄せてくださるように。

☆主がメシアとして彼らにご自身を現してくださるように。

☆主がブハラユダヤ人を、ウズベキスタンをはじめ、諸国の祝福とし、彼らのために定められたご計画をまっとうさせてくださるように。

☆主が腐敗に満ちた警察当局を暴露し、無実の罪で入獄させられたユダヤ人を釈放してくださるように。

☆主が彼らのために祈る、とりなし手を起こしてくださるように。

